

市議会 あんな話・いんな話

第30話

「伊敷、東桜島の両村を合併」

～令和2年は合併から70周年～

昭和23年4月、伊敷村議会の鹿兒島市合併調査委員会の委員が鹿兒島市役所を訪れ、市当局や議員らと交えて懇談、伊敷側から本市への合併申し入れがありました。これを機会に谷山、伊敷、東桜島、西桜島、吉田の1町4村を一丸とする大鹿兒島市建設の機運が高まりました。

同年7月の定例会で大鹿兒島市建設調査委員会設置の動議が提出され、名称を隣接町村合併調査委員会とすることで可決、委員会が発足しました。

同委員会は、谷山と伊敷、吉田、東・西桜島の町村別に本格的調査に乗り出し、町村ごとに議会同士の話し合いも進めました。翌24年1月に、5町村代表を加えて市役所で協議会を開催、伊敷村、吉田村、東桜島村

が早急な合併を望む中、検討の結果、委員会は伊敷、東桜島両村の合併の方針へと傾きました。

合併問題は大詰めを迎え、同年10月の定例会で濱平調査委員長が、委員会内部での賛成・反対論と各市町村の実情を説明した後、「谷山町は編入は行わない方がよい。吉田村は地勢的・産業的事情によって一応合併を見送つてはと思う。伊敷村は住民の日常生活、熱意、議会決意を受け入れ、市へ編入が適当、東桜島は観光を取り入れた市発展の一環として伊敷村と同様に編入、西桜島は、住民大多数が必ずしも賛成でなく、編入条件の全面的受け入れにも無理が伴うので時期を待った方がよい」との報告があり、議会はこれを了承しました。

伊敷・東桜島両村と市の合併は、最終的には、25年2月の定例会に提案、反対論も出ましたが、採決の結

果、賛成26、反対11で原案どおり可決されました。

合併は同年25年10月1日、面積181・54平方キロ、人口は全国で18位、九州で4位の22万9462人の都市が誕生しました。

その後、昭和42年には谷山市と、平成16年には、吉田町や桜島町、喜入町、松元町、郡山町と合併し、現在に至っています。



▶合併を祝う旗行列。このほかバンドの市中行進や花電車などで祝賀気分を盛り上げた。